



代表取締役
竹内 正浩 氏

株式会社 ケープリント 様

<http://www.kpr.co.jp/>

本社：東京都江東区東砂8-5-1
TEL. 03-5683-3301

創 業：1980年12月
代表取締役：竹内 正浩



小ロット印刷へのこだわりで、 パッケージ印刷分野にもさらなる機動力を発揮 厚紙仕様の LED-UV 機で、小ロットパッケージの提案力を向上

株式会社ケープリントは、小ロットカラー印刷分野に特化したサービスを早くから提供し、多様なお客様のニーズに応えている。小ロットオフセット印刷、デジタルオンデマンド印刷、小ロットパッケージ&ディスプレイという3つの事業を展開し、常に新しい技術や設備を積極的に導入し、商品開発やお客様へのサービス向上に努めている。小ロットパッケージ&ディスプレイの分野のさらなる需要開拓と生産性向上を目指して導入したのが、厚紙仕様の LED-UV 乾燥装置搭載 RMGT 790PF モデルであった。導入の経緯と成果について、株式会社ケープリント 代表取締役社長 竹内 正浩氏と生産本部印刷部 印刷一課 課長 作山 和志氏にお聞きした。

常にお客様の心に 届くサービスを心がけ

「小ロットカラー印刷特急便」で業界でも評判となった株式会社ケープリント。そのサービスは高品質、低価格、納期厳守を特徴として、1996年にビジネスモデルを確立。20年を超える今でも「顔の見える対応」を心がけ、全国2,500社を超えるというお客様の要望や困りごとにきめ細かく対応している。オフセット印刷部門では2006年に導入しているUV仕様のB2判両面兼用8色印刷機758Pを使った即乾印刷で、同社の「小ロットカラー印刷特急便」をさらに進展させた。同社では小ロットのパッケージ分野にも早くから着目。2003年にはパッケージデザインおよびデータ作成が行えるパッケージスタジオを立ち上げ、立体物の分野を強化している。パッケージ、POP分野の受注増加とともに、2011年には本格的な型抜き機を導入し、社内での一貫生産体制を確立している。パッケージ印刷分野における同社の強みについて同社の竹内社長は「デザイン設計から、印刷、抜き加工まで

一気通貫で処理できます。オフセット印刷機だけでなく、デジタルオンデマンドの小ロットのパッケージ印刷まで対応しています。当社は1部から10,000部までお客様の求める形を提供できるのが強み。短納期で多彩な形態の仕事ができます。」現在、厚紙の仕事は食品関係、飲料水関係などのパッケージや、陣列什器、販促用POP商品など、多種多様な商品を小回り良く生産している。

高品質パッケージをスピーディに

小ロットのパッケージ分野を進めるために、2016年6月に導入したのがLED-UV搭載のB2判両面兼用6色オフセット印刷機RMGT 790PFモデルであった。同機は厚紙印刷に対応するため、0.8mmまでの用紙に印刷できる厚紙仕様機となっている。用紙の厚みに応じて渡し胴のシェルを開閉させ、用紙を非接触で搬送する機構を内蔵している。また、1色目の圧胴上と排紙部の2箇所にLED-UV乾燥装置を搭載し、先刷り1色と後刷り5色の両面即乾印刷をワンパスで行える印刷機である。同社は既設の

CTPや後加工の設備に合わせたサイズとして、B2サイズ機である790モデルを選択している。導入の背景について同社生産本部の作山課長は次のように語る。「当社の中核事業の一つとして育てている小ロットの厚紙印刷の分野を、さらに強化していくために、より生産性が高い枚葉オフセット印刷機の導入が必要でした。これまでの厚紙仕様機は油性印刷機だったので、どうしても乾燥による待ち時間が必要で、納期の短い仕事には対応が難しい状況でした。また、こすれ傷の発生といった問題もあります。既設の



生産本部印刷部 印刷一課 課長 作山 和志氏

WORKS

実績紹介



デザイン・設計

カッティングプロッタで高速カット作業

印刷フロアに設置している抜き型機



パッケージの設計、サンプル制作、本生産までを一貫体制で対応。



↑抜き型を駆使し、オリジナリティを追求したパッケージ製品

↑クーポンマガジンのディスプレイ仕器

厚紙を使った卓上型カレンダー

↑パッケージ製作の3D技術を応用した、教材用ペーパークラフト組み立てから着色までものづくりの楽しさを伝える企画が進行中

油性印刷機の老朽化に伴い、こうした課題を解消できるLED-UV乾燥装置搭載の印刷機を導入しようということになりました。LED-UV乾燥装置は、省電力でしかも発熱が少なく、ランプ方式のように大掛かりな排気ダクト工事が要らない点を評価しました。UVインキ独特の臭いが無い点もメリットでした。食品関係などパッケージの印刷では特に臭いは嫌われますから。」

多彩なバリエーションの仕事に1台で対応

先刷り1色と後刷り5色の両面印刷機を選択した理由については「当社の厚紙印刷の仕事の一つとして、お菓子などの箱印刷があります。表面が白で裏面が鼠色のコートボール紙を使って、表面は4色～5色で印刷、裏面が1色で説明書きなどを印刷するものです。こうした両面の仕事に効率良く対応できる機械構成としました。一方、片面印刷機として使えば、特色を使ったストレート6色印刷や、5色の後にOPニスを行うこともできます。OPニスは厚紙印刷のこすれ防止のために使います。両面印刷から片面印刷まで、多種多様なバリエー

ションの仕事に対応できる機械として、両面兼用印刷機の790PFモデルを導入することにしました。」(作山課長)

厚紙も薄紙もオールラウンドプレイヤーとして性能を発揮

同社は790PFモデルでの厚紙印刷の実績も増えつつあり、確かな手応えを感じているという。「台紙印刷、タトウケース(紙フォルダー)、パッケージ印刷など、1,000部、2,000部といった小ロット印刷での実績が確実に増えています。0.5mmを少し超える厚紙の印刷が多いのですが、傷、こすれもなく安定した印刷品質が得られています。LED-UVによって厚紙の印刷でも次工程への時間待ちが解消でき、作業効率が大変良くなりました。印刷現場は繁忙時でも定時内で仕事を終えて帰っています。」と導入効果を強調する竹内社長。もちろん、一般の商業印刷の分野においても790PFモデルはオールラウンドに活躍している。「一日の中でも厚紙、薄紙を何度も切り替えて行う作業を行っていますが、切り替え作業はスピーディです。ボタン一つで渡し胴のシェルが用紙の厚みに対応して自動で開閉する機構や、各種プリ

セット装置があるので、用紙厚の変更においても切り替え作業に手間取りません。」と語る作山課長。



付加価値の高い小ロットカラー印刷をLED-UV機で開発

同社では790モデルの導入によって特色や厚紙関係の仕事は790モデルに、ギャンギングなど薄紙の両面4色の仕事は両面兼用印刷機758Pにと、それぞれの機械特性に合わせた効率的な仕事の割り当てが可能となったという。UV印刷機2台体制で小ロットカラー印刷の短納期を実現している。同社の今後の展望について竹内社長は次のように語る。「今後は790モデルにはPET樹脂や、アクリル製の用紙など特殊原反を使った付加価値の高い商品の印刷にも活用範囲を広げていきたいです。RMGTさんはLED-UVは先駆けなので、技術力や市場での実績は一番ありますので、今後とも色々な情報提供や技術支援・アドバイスをお願いします。」



LED-UV乾燥装置搭載 B2判両面兼用6色オフセット印刷機 RMGT 790PF-6

リョービMHIグラフィックテクノロジー株式会社
東日本営業部 東京営業二課 森岡 正一

薄紙から厚紙の小ロット印刷で実績のあるケーブプリント様の仕事内容に最もマッチした機械構成を提案させていただきました。また、工場の近隣は住宅街という事もあり、工場内環境(音・熱)については配慮しました。

